

組織の最適化支援

オーナーズアジェンダ



収益性

- オーナー企業では、オーナー経営者が自ら先頭に立って、会社の成長を牽引してきたという会社が多数あります。このような会社では、売上の拡大に注力する一方で、組織体制にまで目が行き届いていない場合があります。当初は適切な組織設計となっていたものの現在では会社の戦略、成長段階に見合った組織設計となっていないというケースがあり得ます。また、規模が拡大していく過程で、部門機能の一部が複数部門で重複し、非効率で高コストな状況となっている例もあります。
- オーナー経営者の有する能力、実行力により、一定レベルまでのファミリービジネスの成長は望めますが、さらなる高みを目指すためには、組織力を活かした経営が不可欠です。
- 勘に頼らず数値に基づく経営を実現するためには、組織・部門の機能を定義した上で、KPIを設定しモニタリングと改善が可能な体制とすることが有用です。

PwCサービスイメージ

組織体制の最適化支援

- 全社戦略、事業戦略との適合性の観点から現状分析および課題抽出
- 課題に応じた解決策の検討および実行支援

組織形態（例：事業部制、カンパニー制）の最適化

各組織、部門の役割、権限、責任の最適化

組織運営の最適化支援 (KPIマネジメント支援)

Plan

- 戦略に沿ったKPIの設定支援（組織・組織人員の活動目標を設定）
- KPI達成のための計画策定支援（いつ、誰が、何をすべきかを計画）

Do/Check

- KPI進捗状況の見える化
- モニタリング体制の整備・運用支援

Action

- KPI未達成要因の分析
- KPI達成状況を踏まえた打ち手の検討

サービスの特長

豊富な事例と客観的な視点

- 過去の豊富な支援事例をもとに組織の最適化を実現
- 客観的な視点で組織改革を強力に推進

財務諸表数値に連動したKPIマネジメント

- 会計の専門的知識・経験をもとに、財務諸表数値に連動したKPIマネジメントを支援（財務諸表数値の改善を実現）

予算管理の高度化支援

オーナーズアジェンダ



収益性

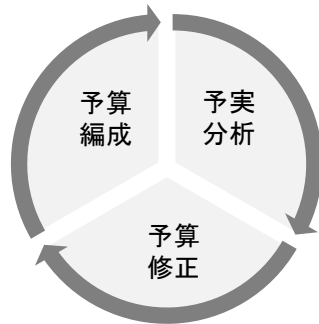
- 予算について会社が抱える典型的な課題は、以下の通りです。
 - ✓ 予算を立案するものの、前年度からの延長に過ぎず経営戦略との整合性が取れていないケース
 - ✓ 予算の立案には十分な検討を行うものの、その後のモニタリングが不十分であり、行動の改善につながっていないケース
 - ✓ 期中における環境の変化に対し経営戦略を見直す、適時の予算修正が行われず予算管理の実効性を担保できないケース
- 特にファミリービジネスを営む会社の特徴として、オーナー経営者の意思決定が非常に速いことが多いため、特徴の一つといえます。事業環境の変化に応じた事業戦略の変更を迅速に行うものの、予算の見直しを適時に行っておらず、予算管理が形骸化している例が多々あります。
- 工数をかけて立派な予算を作成しても、その実行と必要に応じた適時の行動改善が行われなければ、意味がありません。PwCは、経営目標の達成に向けた予算管理の高度化を支援します。

PwCサービスイメージ

サービスの特長

予算編成の支援

- 事業戦略と予算の関連性を明確化
- 予算編成プロセス迅速化のための見直し
- 各予算の管理責任者を明確化
- 予算編成プロセス（見直し後）の定着化（運用支援）
- 予算をKPIに分解し、打ち手に繋がる予算を編成し、活動計画を策定



予実分析の支援

- 予実対比分析の枠組み・プロセスの標準化
- 予実分析プロセス（見直し後）の定着化
- BIツール導入による予算管理情報の可視化
- 設定したKPIと実績を分析し、活動計画の再策定

予算修正の支援

- 予算修正を必要とする項目、内容、プロセスの整理・標準化
- 予算修正プロセス（見直し後）の定着化
- 予実分析結果に基づく改善点の検討

プロフェッショナルによる視点

- 予算管理に精通したプロフェッショナルが豊富な事例・経験をもとにアドバイス

運用支援を通じた改善提言

- 運用支援を通じて、予算管理情報が見極め、有用な情報が適時かつ効率的に入手できる仕組みに改善

マネジメントコックピット構築・運用支援

オーナーズアジェンダ



収益性

- 近年、デジタルテクノロジーの進歩、コロナ禍等により経営環境に破壊的な変化が生じています。このような環境下において、オーナー経営者が勘や経験だけを頼りに経営意思決定を行うことは、リスクといえます。
- 特にファミリービジネスを営む会社では、競合他社よりも意思決定が速いことを強みとする会社が多い傾向にあります。十分な経営情報（販売動向、顧客動向、予算実績対比等のデータ）を入手せずに、感覚のみを頼りに意思決定を急ぐことはリスクが高いといえ、会社の成長を鈍化させるおそれがあります。
- 経営者が経営情報を適時入手するためには、ITの積極的な活用が欠かせません。PwCは、経営者が必要とする経営情報の適時入手、および迅速な経営判断に資する当該情報の視覚化（マネジメントコックピット*1の構築）を支援します。また、マネジメントコックピットの構築後は、定着のための運用支援を行います。

PwCサービスイメージ

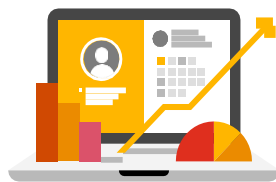
マネジメントコックピット

構築支援

- オーナー経営者の皆様が必要とする経営情報の整理
- 経営情報を集約・報告するプロセスの構築（IT活用）
- 報告情報の視覚化（BIツール活用）

運用支援

- 経営情報を集約するプロセスの運用支援
- 経営情報を報告するプロセスの運用支援（集約した情報の分析・視覚化）



データ分析



意思決定

サービスの特長

プロフェッショナルによる視点

- 財務報告の実務に精通したプロフェッショナルが経営判断に資する情報を峻別し、有益な分析データを提供

BIツール・視覚化に関する豊富な知識・経験

- BIツール・視覚化に関する豊富な知識・経験を活用し、オーナー経営者が迅速に意思決定できる環境を整備

(*1) マネジメントコックピット：IT活用により経営判断に必要なデータを瞬時に視覚化された形で提供することで、マネジメントによる迅速な意思決定を支援するシステム

ビジネスプロセスの再構築（BPR）支援

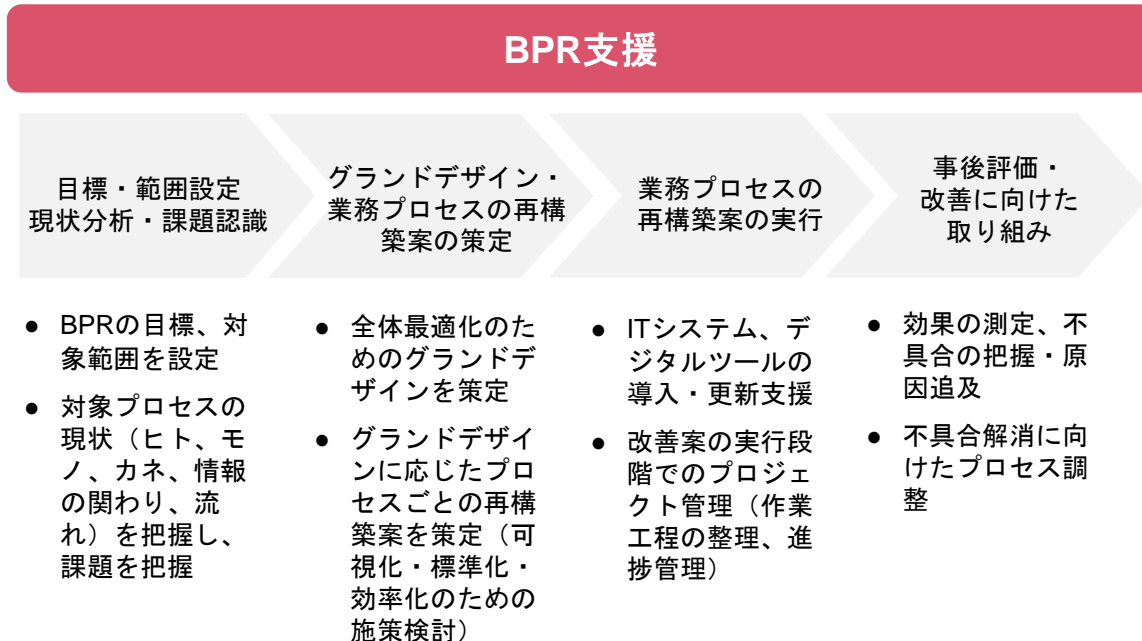
オーナーズアジェンダ



収益性

- ファミリービジネスを展開していく過程で、規模の拡大や事業戦略の変更により、ビジネスプロセスの再構築（BPR）を検討すべき時期が必ず訪れます。業務プロセスを効率化することで、コストの削減を図ることが可能となります。
- BPRを実行する際には、1) 事業戦略との整合性、2) 全体最適化、3) プロセスの見える化、4) 効率化の視点が必要です。また、長期的な視点でプロセス全般をデジタル化していくことも検討に値します。

PwCサービスイメージ



サービスの特長

